

## 幹事会・支部代表者会議を開催

3月7日(土)14時30分から大分市ホルトホール302会議室にて、幹事会・支部代表者会議が開催されました。

吉田代表は冒頭、先の衆議院総選挙において厳しい結果となったことに触れ、「この結果を真摯に受け止め、党としてしっかりと総括しなければならない」と述べました。そのうえで、なぜ支持が広がらなかったのかを丁寧に検証し、次につなげていくことの重要性を強調しました。一方で、物価高や地域経済の停滞など、国民生活を取り巻く課題は依然として深刻であり、「こうした状況だからこそ、立憲民主党の役割は大きい」と指摘。現場の声を丁寧にすくい上げ、具体的な政策として示していく必要性を訴えました。

また、党員・サポーターの活動が地域における党の基盤を支えていることに触れ、組織の強化と党員拡大に引き続き取り組むよう呼びかけました。さらに今後に向けて、「地域に根ざした対話と地道な活動の積み重ねこそが信頼回復につながる」と述べ、各支部が一体となって取り組む必要性を強調しました。

最後に、県連として結束を強め、県民の期待に応える政治を実現していこうと呼びかけ、あいさつを締めくくりました。

### ■ 吉川はじめの言葉

今回の衆議院総選挙の結果については、大変厳しいものだったと受け止めています。だからこそ、この結果をしっかりと検証し、なぜ支持が広がらなかったのかを見つめ直し、次につなげていかなければなりません。

こうした時だからこそ、地域に根ざした活動や日々の対話の積み重ねが大切です。一人ひとりの取り組みが信頼となり、次の選挙につながっていくと考えています。

課題に正面から向き合いながら、これからも前に進んでいきたいと思えます。

### ■ 小林かやこの言葉

2回目の国選挑戦でした。前回にも増して立憲大分県連をはじめ、各組織や後援会の方々から絶大なるご支援・応援をいただきました。「今回こそは」という思いで再挑戦しましたが、みなさまのご期待に沿う結果を出せなかったことを大変申し訳なく思っております。

当選はできませんでしたが、選挙を通じて訴えてきたことに間違いはなかったと思っています。ここからまた皆さんと頑張っていきたいと思えます。今後ともよろしくお願ひします。

3月29日(日)に予定されている、立憲民主党の定期大会と、事前の全国幹事長会議に向け、総選挙総括及び新党結成、今後のあり方について討議しました。参加者の皆さんからは活発に意見が出され、全員で一致団結して取り組みを進めていくことが確認されました。



【国際女性デー全国一斉街宣】大分県内においても、3月8日(日)の国際女性デーを中心に、各地域で街頭宣伝やビラ配布等を実施しました。

※ 国際女性デーとは… 1900年代初頭に女性の参政権や労働条件改善を求めて起こったデモが起源となり、1975年3月8日、国連がこの日を「国際女性デー(International Women's Day)」と制定、1977年の国連総会で議決されました。女性たちが達成してきた功績を祝福し、ジェンダー平等を考える日として、毎年世界各地でさまざまなイベントが行なわれます。「ミモザの日」とも呼ばれ、黄色いミモザの花がシンボルとして親しまれています。

